

Bridge Asia Japan BAJ

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2011年1月1日～12月31日

2011年度



2011年度 年次報告書

(2011年1月1日～12月31日)

もくじ



2011年度を振り返り、 さらに2012年度に向けて	3
BAJのめざすもの	4
ミャンマー事業報告	6
プロジェクトマップ	
Ⅰ ラカイン州北部の地域開発事業	7
(1) テクニカルワークショップ事業	
(2) インフラストラクチャー事業	
(3) コミュニティー社会開発事業	8
(4) シトウエ事業	
Ⅱ 中央乾燥地域 生活用水供給事業	9
(1) 深井戸の掘削建設事業	
(2) ローカルメンテナンsteamの育成事業	10
(3) マグウェ鉄砲水災害の被災地支援	
Ⅲ 南東国境事業	11
(1) 水供給施設の建設と維持管理事業	
ベトナム事業報告	12
プロジェクトマップ	
Ⅰ ホーチミン市の事業	13
(1) アンカイン地区・タインミーロイ地区生活改善事業	
(2) ティエンアン盲学校支援事業	
(3) グエンヴァントー中学校の環境教育事業	
(4) 子ども教室(ばじ子)の運営	
(5) ゴイサオ学校の環境学習と科学工作活動	
Ⅱ フェ市の生活改善事業	15
(1) 教育支援事業	
(2) 環境教育活動	
Ⅲ クイニン市の環境教育事業	16
Ⅳ 環境ワークショップの開催	17
東京本部事業報告	18
Ⅰ 資金の調達	
(1) 助成金や会費、寄付など	
(2) 東京事業の開始	19
① フルクル・プロジェクト	
② 東北復興支援事業	20
Ⅱ 広報活動	21
(1) 情報発信	
(2) 広報強化事業	22
① 支援者データベースの導入	
② ファンドレイジング	
Ⅲ 総務・管理	23
(1) 職員研修	
(2) ネットワーク	24
(3) インターンの受入れ	
Ⅳ 海外事業の支援	25
(1) 現地活動の視察	
(2) 出張・招へい	
会計報告	26

2011年度を振り返り、 さらに2012年度に向けて

2011年度の年次報告書をお届けいたします。

3月11日に発生した東日本大震災に端を発した国内での緊急救援活動は、BAJにとって初めての経験となりました。ジャパン・プラットフォームの資金や皆さまからのご寄付により、2012年度も継続して支援を行っております。これまで地元グループを通して被災者の方々と関わることで、まだまだ解決しなければならない問題が山積している状況が明らかになってきています。BAJは可能なかぎり、支援を続けていく所存です。

ミャンマーでの活動は2012年で17年を経過しました。とくに2011年は前年度の総選挙の影響が大きく、ミャンマーの行政に対して申請しても許可がなかなか下りず、事業運営を計画通りに進めることが大変困難な状況でした。

中央乾燥地では拠点を新たにマグウェ管区に移し、資機材の移動、スタッフの募集や新事務所の開設など準備に追われました。南東国境での水供給事業では、UNHCRの予算がつかない時期があり事業の縮小を考えましたが、その後追加予算により事業を継続することができました。

ミャンマー政府の新体制への移行に伴い、その方向性が徐々に明らかになり、民主化へ向けての施策が加速するなかで、17年の活動経験を持つBAJにとって、今後ミャンマーへ参入を考える企業や団体に対し、よき発展のためにぜひ知っていたきたい情報を発信するべく2012年4月より連続セミナー「ミャンマーの今を知る」を企画実施し、多くの方々にご参加いただいています。

そのさなかの2012年6月8日、BAJミャンマーの最大活動サイトであるマウンドー事務所の地元で、民族対立による大規模な暴動が起きてしまい、ラカイン州全土に非常事態宣言が出て郡当局が制圧に乗り出しています。現時点(6月12日)でまだその詳細は判明していませんが、各地で大きな被害が出た模様で、BAJとしては緊急救援の体制を準備しているところです。

2011年のベトナムは、それまでの貧困地域における教育や収入向上の課題から、地域の伝統的な野菜を見直し、環境にやさしい地域づくりへと大きく変化した年となりました。一緒に活動するパートナーも、農家や地域行政の人たちなど、地域を巻き込んだ活動へと成長しています。

一方で、中学校や高等学校での環境教育や科学工作などの授業を受け持ち、ベトナムでの環境に対する啓もう活動に努めています。とくに水質や土壌の汚染など身近な環境問題については、子どものころから意識付けをしていくことが大切なことだと考えています。

2011年、そして2012年へと進めるなかで、新たな仲間と出会い、新しい事業にチャレンジしながら、2012年から2013年に向けて活動を進めていきます。引き続き、私たちBAJの活動を見守り、ご支援ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
理事長 根本 悦子

BAJのめざすもの

Vision

私たちはいま、貧困、難民、環境破壊など、国境を越えた世界規模の問題に直面しています。

BAJはこうした解決が不可能と思われる問題に対し、

地域から考え、地域で行動を始めることで、解決の道を探ります。

特に日本と関係の深いアジアの人々と連帯し、健康で幸福な生活につながる環境を整え、

アジアの人々との共生を実現するために、政治体制や宗教、民族言語、文化の違いを越えて、

相互理解の架け橋となれるようお願いしながら、4つの目標を定め、活動を進めています。

Mission

1 技術習得や能力強化の機会を提供します

帰還民や国内避難民、障害を持つ人や教育の機会に恵まれなかった青年、雇用機会の少ない女性などを対象に、地域にある適正技術や伝統技術を活用し、新しい技術も取り入れながら、技術習得や能力強化の機会を提供します。

2 収入向上を支援します

習得した技術を収入に結びつけるため、必要な知識や具体的な場を提供し、自立を支援します。

3 地域発展のための環境基盤を整備します

地域経済を活性化させるための基盤となる学校や橋、井戸などの建設を、住民参加を図りながら進めます。

実際の建設作業は、住民への実地訓練を兼ねて進め、保守や管理を地域の人たちが担えるよう支援します。

4 環境の保全を進めます

環境への負荷が少ない循環型で持続可能な社会をつくるため、必要な環境教育や伝統を見直し、

障害を持つ人、子ども、青年、お年寄りなど各世代の人々が関わりあいながら、

地域で実践可能な環境保全の取り組みを進めます。



Goal

◆ミャンマーのゴール

帰還民や貧困青年のための技術研修の実施
(電気、溶接、エンジン修理、裁縫、建設、井戸掘削など)

教育に恵まれなかった女性を対象に識字や生活改善の訓練実施

技術研修により技術を修得した訓練生を対象に収入向上の機会を提供

地域住民の参加を促しながらOJTによる学校や橋の建設

生活用水を確保するための井戸掘削、建設、既存井戸の修繕

貧困層居住地域での保健衛生指導

◆ベトナムのゴール

貧困層の子どもを対象にした就学支援や、補習クラスの実施

農民を対象に、伝統農産物の復活と販売ルートの確立

住民によるゴミ分別活動を通じた生活環境の改善

生ごみの堆肥化による都市と農村をつなぐ循環型農業の推進

障害を持った青少年の社会参加による自立促進

◆震災被災地域復興のゴール

被災者を対象にしたコミュニティーセンターの建設

センターを中心に、被災者のコミュニティーづくりのための文化活動

仮設住宅やみなし仮設で生活する被災者への配食と見守り

被災者を対象にした相談事業の支援



きょうは修了式、みんなはりきっておめかしをしてきました。

海外支援活動事業

ミャンマー

2010年11月の総選挙実施から2011年に入って国会を召集し、軍事政権の首相だったテイン・セイン氏が大統領に選出され、新政府が誕生しました。少数民族勢力への停戦呼びかけ、帰国する亡命者への恩赦、アウン・サン・スー・チー氏との対話、政治犯の釈放、メディア規制の一部緩和など、ミャンマーは民主化への転換をはかった1年となりました。

経済面では、二重為替を廃止し、公式両替所の市中設置や外国投資法の改正などを行い、海外からの投資の促進を進めています。しかし、民間所有地の外資への賃貸許可などの影響で、土地・家屋や賃貸料の高騰から、貧富の格差は拡大しているようにみえます。

こうした状況のなか、2011年半ばから急激なチャット高が進み、ローカルスタッフ給与の手取り額が約30%も目減りしたため、BAJは追加的措置としてローカルスタッフ全員を対象に8～12月の給与について特別手当を支給しました。

9月27日、懸案であった中央乾燥地における生活用水供給事業の拠点の移動をふくむミャンマー政府カウンターパートである国境問題省開発局とMOUを締結し、マンダレー管区チャウバドン事務所を閉じて、マグウェ管区に拠点を移しました。新スタッフによる調査を開始したその矢先、10月20日に鉄砲水による災害が発生し、新事務所が中心となって緊急救援としての物資配布を実施しました。



I ラカイン州北部の地域開発事業

バングラデシュとの国境地域で、イスラム教徒が多く居住するこの地域は、過去に何度もイスラム系住民が難民となって流出しました。現在は、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が中心となって帰還を進め、さまざまな国際NGOと協力して帰還民の再定住を進めてきました。

BAJはこの地域で1995年より活動を開始し、テクニカルワークショップ事業、コミュニティ社会開発事業、インフラストラクチャー事業を進めてきました。

(1)テクニカルワークショップ事業

【資金:国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)】

ラカイン州の活動拠点であるマウンドーでは、UNHCRをはじめとする国際機関 (FAO/食糧農業機関、UNDP/国連開発計画、WFP/世界食糧計画、UNICEF/児童基金) や国際NGO (ACF、AZG、CARE、CDN、MALTESER など) が集まり、活動に必要な各団体の所有する車両、船外機、発電機などの整備、燃料のろ過サービス、レスキュー作業などの事業をBAJが担っています。

前年度に引き続き、地域の青年を対象に実施している技術訓練コースでは、経済の活発化に伴い自動二輪車が急速に増えて車両整備の需要が伸びた結果、トレーニング修了者の雇用機会も増えています。また、初の試みの自動車運転技術トレーニングでは、州の運輸局との合意で修了者に公式の運転免許証が発行されました。国から正式な身分証明が発行されていないこの地域の住民にとって大きな意味があります。BAJのテクニカルワークショップは、ますます大きな役割を期待されています。

■2011年度に実施した技術訓練コースは以下の通り

No	コース名	期間	参加者	場所
1	単気筒ディーゼルエンジン修理・メンテナンス基礎コース	2月15日～3月31日	15名	ナクヤ (マウンドー)
2	自動車運転技術コース	4月28日～5月11日	10名	BAJワークショップ (マウンドー)
3	単気筒エンジン修理・メンテナンス フォローアップコース	6月01日～7月13日	15名	BAJワークショップ (マウンドー)
4	単気筒ディーゼルエンジン&マリンギアボックス修理・メンテナンス基礎コース	8月18日～9月30日	15名	タウンバザール (ブティドン)
5	自動二輪車修理・メンテナンス基礎コース	11月01日～12月30日	15名	BAJワークショップ (マウンドー)



男性にまじって女性も技術トレーニングを受けています

(2)インフラストラクチャー事業

【資金:UNHCR】

引き続き、橋梁と学校校舎の建設を実施していますが、ミャンマーの行政機関からの建設許可取得に時間がかかり、進捗に大きな影響がありました。また、木材の流通が密輸防止のため禁止となり、建設資材調達も困難をきわめました。予定した事業はすべて完了しましたが、時間的な制約でコミュニティ開発の観点を入れることができませんでした。

新政府の発足により、国防上の理由で国境地域のインフラ整備が国家事業として検討されています。ラカイン州北部地域でも幹線道路整備が計画されているので、今後BAJのインフラ整備にも影響が出てくる可能性があります。

■2011年度に実施した橋梁と学校校舎の建設は以下の通りです

No	橋梁名	タウンシップ	開始年月日	完了年月日
1	タビイーダウン - ドンシャウン歩行橋 (60' x 8' x 14')	ブティドン	2011年 3月15日	2011年 8月15日
2	クドーセツ - バレータウン歩行橋 (20' x 8' x 10')	ブティドン	2011年 3月15日	2011年 7月31日
3	ティンシャーピン - カンジーピン歩行橋 (30' x 8' x 10')	ブティドン	2011年 9月19日	2012年 1月15日
4	マウンナ - ガジャベツ橋梁 (12' - 3' x 14' x 6')	ブティドン	2011年 10月1日	2011年 12月31日

No	学校名	タウンシップ	開始年月日	完了年月日
1	ナヤゴン小学校 (60' x 30' x 10')	ブティドン	2011年 9月19日	2012年 1月15日
2	バゴナ小学校 (60' x 30' x 10')	マウンドー南部	2011年 9月26日	2012年 1月20日
3	チンチャウン高校 (90' x 30' x 10')	マウンドー北部	2011年 12月13日	2012年 2月29日

■これまでのラカイン州BAJインフラチームの実績

年度	橋梁	カルバート	歩行橋	学校校舎
1998年	3			
1999年	13	28	4	10
2000年	19	29	3	5
2001年	17	18		
2002年	27	16		
2003年				1
2004年	2	9	1	2
2005年	1		1	1
2006年	11	10	1	15
2007年	1		1	
2008年		7	3	12
2009年	6		1	
2010年	1			
2011年	4			3
合計	105	117	15	49

(3) コミュニティー社会開発事業

【資金:三井住友銀行ボランティア基金、リンクフォー、UNHCR、自己資金】

引き続き女性を対象に、識字教育と保健衛生知識の普及を入れた裁縫訓練基礎コースを実施しました。またトレーニングのほかにコース修了の卒業生による収入向上事業も年間を通して実施し、卒業生が縫った裁縫製品をヤンゴンや東京で販売しました。一方で技術的な課題も見えてきており、次年度は質の向上に重点を置くことを計画しています。

なお、小規模ビジネスや非常時の資金として協同で活用するために貯金グループを結成し、公正な運用・管理のための帳簿付けの訓練を実施しました。

■2011年度に実施した技術訓練コースを以下の通り開講しました

No	コース名	期間	参加者	場所
1	裁縫訓練基礎コース(サイクル1)	1月25日～3月31日	150名	ブティドン、マウンダー
2	裁縫訓練基礎コース(サイクル2)	5月2日～6月30日	125名	ブティドン
3	裁縫訓練基礎コース(サイクル3)	8月1日～10月7日	119名	マウンダー南部
4	裁縫訓練基礎コース(サイクル4)	11月1日～12月30日	124名	マウンダー北部
5	裁縫訓練応用コース(サイクル1)	5月2日～7月29日	22名	ブティドン
6	裁縫訓練応用コース(サイクル2)	9月19日～12月16日	23名	マウンダー



熱心にノートをとるコース訓練生たち



技術訓練コースを修了して修了証書をもらいました。

(4) シトウェ事業

ラカイン州北部で実施されている各事業に対し、ロジスティクスのサポートや、州政府機関との交渉などを行いました。

近い将来にシトウェ事務所を拠点にした活動を立案できるよう、学校など教育関係の施設やそのアクセス、および防災訓練に関するアセスメントを実施しました。



裁縫訓練コースを終えて、訓練生が修了証をもらいます



技術訓練コースでは、エンジン構造の講義を受けます



技術訓練コースの実技では、実際にエンジンを使って研修します

II 中央乾燥地域 生活用水供給事業

ミャンマー中央乾燥地のバガンは、世界三大仏教遺跡のひとつで、2000基以上のパゴダや寺院が林立する考古学保護区です。しかし遺跡群から離れて点在する村に入っていくと、そこは年間降雨量500～700ミリメートルという乾燥地域で、村人は乾季になると生活に必要な水を確保するため、数時間かけてため池や井戸のある村へ水を汲みに行かなければなりません。BAJは1999年よりミャンマー政府の要請を受け、この地域で生活用水を確保するための井戸の掘削や修繕を進めてきました。

NGOがこの地域で活動するためにはカウンターパートとの覚書が必要で、BAJは国境省開発局(DDA)と3年ごとに覚書を締結して事業を進めてきました。今年の9月27日には第5期目の覚書について、ミャンマー政府国境省大臣、駐ミャンマー日本大使などのご臨席をいただき、ネピドーで締結式を行いました。

BAJはマンダレー管区のチャウパドンを拠点に事業を進めてきましたが、ある程度の成果があがったという認識のもと、これまでの活動拠点であったチャウパドンから80キロメートル南にさがったマグウェ郡を新拠点地として、水供給事業を開始することとし、2011年10月に資機材などの移動を行いました。

(1) 深井戸の掘削建設事業

【資金:ワタベウェディング(株)、個人寄付、自己資金】

西側にアラカン山脈を控えた中央乾燥地のマンダレー管区やマグウェ管区は、複雑な地層の地域で、イラワジ河が流れてはいますが、その水脈を村で活用することができません。電気探査法で帯水層を探ってみると、場所によっては地下300メートルも掘削しなければ水を確保することができません。

BAJでは2011年末までにこの地域で110本の深井戸を掘削建設し、2007年からはボアホールカメラを導入して既存深井戸の修繕も開始し、同じく2011年末までに286本の井戸を修繕して井戸の復活を進めています。



汲みあげた水を溜めるタンクの建設

■2011年度に掘削建設した深井戸は以下の通りです

No	管区・郡名	村名	掘削～貯水タンク建設	資金
1	マンダレー管区 ニャンウー郡	インダイン村	2010年9月12日～ 2011年2月1日	木村信夫 メモリアル
2	マンダレー管区 ニャンウー郡	タウンバ村	2010年11月24日～ 2011年2月16日	渡辺隆夫(ワタ ベウェディング)



新しい井戸が村にできて、順番を待つ村人たち

2011年は、日本で起きた東日本大震災の影響で、企業寄付や政府の緊急ファンドの多くが国内に還流され、海外への支援が減少したことは否めません。

中央乾燥地域での水供給事業も十分な資金を調達できず、予定したプログラムの継続が困難な面もありました。深井戸の修繕事業、井戸の長期的維持管理事業、専門家の派遣など計画を達成できませんでした。

(2) ローカルメンテナンsteamの育成事業

【資金:ワタベウェディング(株)、自己資金】

村人たち自身で井戸の保守管理などができれば、安心して生活ができます。BAJでは、一時中断していたローカルメンテナンsteamの事業を2008年から再開し、オンザジョブで研修を進めながら、実際に村から井戸修理の要請を受け、メンテナンスや修繕を実施できるまでに成長しました。

2011年4月からは、BAJと話し合いを進めながら自立を目指して具体的な計画を立て、機材や道具類の整備、運営のための規則などを作りました。BAJはローカルメンテナンsteamのモニタリンググループをつくり、今後も外部から支援していきます。

なお、BAJがこれまでにイラワジ河沿いに設置された浅井戸26本について、BAJのカウンターパートである国境省(DDA)と協力しながら調査を行い、修繕が必要な井戸についてローカルメンテナンsteamに委託し、合計19本の修繕を行いました。その結果、水量が飛躍的に増え、学校関係者や周辺の村人約1万人が十分に水を得られるようになりました。



中央乾燥地水供給事業の覚書締結式で



締結式のあと、国境省大臣と歓談することができました

(3) マグウェ鉄砲水災害の被災地支援

【資金:緊急支援募金、自己資金】



BAJの救援物資配布に並び被災された住民



鉄砲水の被害を受けた家屋



根こそぎ持っていかれた住民

10月20日の未明に、マグウェ管区の4郡を中心に鉄砲水災害が起き、死者・行方不明者161人、流失家屋約3,000世帯、26,000人以上の被災者が出ました。BAJでは現地カウンターパート(当時のDDA)と協力してセイピュー郡の8箇村に対し、10月25日を皮切りに5回にわたって緊急救援物資の食料・水・懐中電灯などを配布しました。

2012年1月18日から、JPF(ジャパン・プラットフォーム)の資金を得て、緊急救援第2弾として、屋根や床を補強するトタン板など資材、貯水バケツ、学校標準服、玉ネギの種などを各村に配布しました。

Ⅲ 南東国境事業

タイと国境を接する南東国境地域のカレン州、タニンダリー管区、モン州は、南北 2,000 キロメートルに及ぶ地域です。BAJ は 2004 年から UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の要請を受けて、3 か所に事務所を設置して水供給事業を実施してきました。

少数民族をかかえるこの地域は紛争も多く、計画通りに事業を進めることがなかなか困難ですが、関係機関と情報を共有しながら安全に充分注意を払い、2011 年も引き続き給水施設の建設や地下水脈調査、井戸の修繕、衛生知識の普及などの事業を進めました。

新体制になったミャンマー政府は、少数民族が多く居住する国境地域の開発を進めようとしており、UNHCR をはじめいくつかの国際 NGO がこの地域への参入を計画しています。

(1) 水供給施設の建設と維持管理事業

【資金:UNHCR】



奥に見えるのがBAJの設置した貯水タンク

■2011年度に実施した水供給施設事業は以下の通りです

地区名	2011年水供給箇所 作業完了		
	水供給施設の新設	既存水供給施設のフォロー	計
カレン州 Kayin State	17	10	27
モン州 Mon State	15	8	23
タニンダリー管区 Taninthari Division	14	11	25
計	46	29	75

新規給水施設の建設を46箇所で行って完成し、16,844人が水を得られるようになりました。ただしリンロンシャイン村では掘削を2回行いましたが、巨礫が多い地域で掘削穴が崩壊してしまうため、掘削を断念しました。既存給水施設のフォローとして29箇所で行って点検と修繕を実施し、住民にも簡易な修繕方法について学んでもらいました。

水供給施設の維持管理講習としてエンジンやポンプの操作とメンテナンス、水管理委員会の役割を説明し、その

後水に関する衛生知識の講習を2日間にわたって38箇所で行いました。講習対象者のなかからピアエドゥケーター20名に対しワークショップを開いてさらに学んでもらい、キットを渡してモニタリングを行うようにしました。

また、地下水脈調査(GP)として電気探査による地質調査と電気検層によるボアホールカメラを使った調査を49箇所で行いました。

BAJが過去に設置した給水ポイント、とくにヒ素汚染の可能性のある40箇所について、デジタルヒ素計測器により再検査を実施した結果、1箇所でのヒ素混入が確認されたため、ヒ素の除去方法について検討中です。

今後、BAJが実施する生活用水供給事業に関して、BAJとしての水質基準や、利用に関する規程などを整備することとし、2012年に専門家を交えた検討チームを立ち上げることを予定しています。



子どもたちにとっても、水はちからの源になる



田んぼにいる生きものの調査は子どもにとって初めてのことばかり

海外支援活動事業

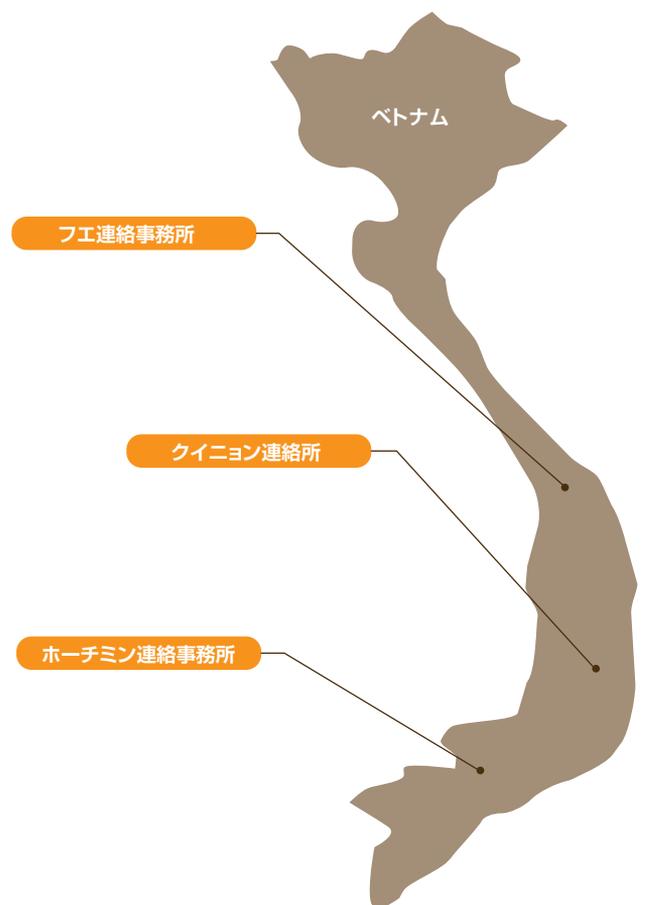
ベトナム

驚異的な経済的発展を遂げているベトナムにあって、日本は最大の支援国であり、タンソンニャット国際空港やカントー橋、ハイヴァントンネルなど基幹となるインフラ整備を進めています。日本の法整備支援も大きな役割を果たしてきました。とくに、1986年のドイモイによる市場経済システムへの移行のために、日本は必要な法整備の支援を進めて成果を上げています。

一方では、都市周辺部での貧富の格差が進んでおり、また急激な開発による環境破壊も進んでいるとみられ、NGOなどを通じた支援は有効であると考えています。

BAJが2002年からホーチミン市アンカイン地区で開始したスラム地域での教育支援と環境改善活動は、数年前から始まった住民移転を受けて、移転先のタインミーロイ地区の集合住宅で活動を続けてきました。しかし最近になってこの住宅から出ていく住民が増えていることや、子どもの教育に対して親の意識が変化して改善されてきたこともあり、2011年をもってアンカイン・タインミーロイ地区での活動を終了しました。

ベトナム中部のフエ市では、水上生活世帯の子どもたちを中心にした環境改善活動から発展して、生ごみの堆肥化から農家とのつながりができました。そのなかからバイオガスダイジェスターを導入した小規模なりサイクル農業を実践する農家のグループを立ち上げて、収入向上を目指したさまざまな取り組みを始めています。



I ホーチミン市での事業

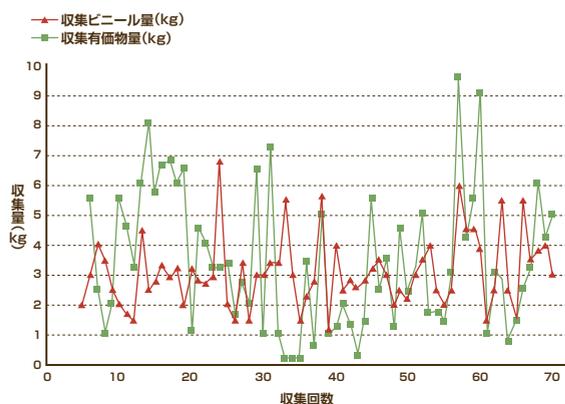
2002年に活動開始したアンカイン地区および移転先のタインミーロイ地区では、ゴミ分別収集活動、マイクロクレジット、奨学金と学習補習クラスなどの教育支援、地域の衛生環境改善などの活動を実施してきました。また2005年からは「輝けアジアの子ども基金」を創設し、これまでの6年間で延べ177人の子供たちを支援してきましたが、住民移転が実施され、ばらばらに他地域へ移っていく住民が増えています。

(1) アンカイン地区・タインミーロイ地区 生活改善事業

【資金: キヤノン(株)、輝けアジアの子ども基金】

2010年度からの継続事業として、アンカイン地区からの移転先であるタインミーロイ地区で、30世帯を対象にゴミ分別活動を毎週日曜日に実施しました。また、地域の子どもたちを対象にお絵描きクラスを実施しました。

タインミーロイ地区で実施した有価ゴミの推移は以下の通りです。



子どもたちによるゴミ分別回収がすっかり住民に定着しています

2002年から開始したアンカイン地区では、ゴミ分別活動、マイクロクレジットや奨学金、補習クラスの実施を通じた教育支援、地域の衛生改善活動など9年間にわたり活動を行ってきました。また「輝けアジアの子ども基金」を立ち上げてから6年を経過し、親たちの教育に対する意識も変化し、「家計を節約してでも子どもたちに教育を受けさせる」という姿勢が身について、子どもたちの就学状況は大きく改善されました。こうした状況や教育レベル改善の成果を判断して、アンカイン地区とその移転先であるタインミーロイでの活動を終了することになりました。

(2) ティエンアン盲学校支援事業 (視覚障害児者支援)

【資金: キヤノン(株)、輝けアジアの子ども基金】

ティエンアン盲学校は寮制で、9歳から36歳までの約30名の生徒があり、小学校課程の児童には、ティエンアン盲学校出身の教員免許を持つ視覚障害者が先生になって、学習を進めています。中学・高校・大学は外部の教育機関に通います。また盲学校では音楽、スポーツ(水泳・武道)、コンピューター、マッサージなどの活動を進めています。BAJは2011年に28名の生徒について就学資金を支援しており、そのなかの5名が大学在学中か卒業生でした。



点字の勉強中。ティエンアン盲学校で勉強した卒業生たちが下級生に勉強を教えています

(3)グエンヴァントー中学校の環境教育事業

【資金・協力:第10区人民委員会、三井物産環境基金】

第10区のグエンヴァントー中学校からの要請を受け、2008年9月から環境教育の授業を開始し、2011年9月まで継続実施しました。5つのテーマ(ゴミ、水、エネルギー、生物・森林、大気・土)について実践活動を交えながら授業を進めました。

8月2日にはホーチミンでグエンヴァントー中学校、ゴイスオ学校、ばじこ教室の児童と保護者を対象に、エネルギーや水について合同学習会と作品展覧会を行いました。

グエンヴァントー中学校での活動は、2008年からBAJと第10区人民委員会教育部が中心となって進めてきましたが、その後は人民委員会が主体的に環境活動を展開するようになったため、2011年9月でBAJによる環境教育授業を終了することにしました。

(4)子ども教室(ばじこ)の運営

【資金:武田資金】

2009年9月から開始した「ばじこ教室」では、2011年は、Aクラス(新3年生12人)、Bクラス(新2年生6人)、Cクラス(新1年生4人)の計22人を対象に運営し、授業を進めました。

夏に、ホーチミン市のトイチャー新聞社主催の省エネルギーコンテストに、子どもたちが調べた「家庭や学校で使うエネルギー」についての自由研究が選ばれ、トイチャー新聞社とホーチミン市省エネセンターより「ばじこ教室」として特別賞をいただきました。

■2011年の「ばじこ教室」の参加児童数は以下の通りです(2011年12月末現在)

クラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	合計
人数	12名	6名	4名	22名



自由研究の発表をするばじこたち



肉や野菜がどこで作られたものなのかを調べました

(4)ゴイスオ学校・環境学習と科学工作活動

【資金・協力:私立ゴイスオ学校、株式会社LIXIL、武田資金】

2010年9月より開始した私立ゴイスオ中学校での環境学習では、当初6年生の3クラス(130人前後)を対象に実施しましたが、2011年2月末からは6、8、9、10年生の4学年12クラスを対象に、さらに8月からは新6年生～新11年生の6学年18クラス対象に授業を行いました。



音の伝わり方の実験、子どもたちは実験が大好き

■授業で行った環境学習と科学工作の主な内容は以下の通りです

●環境問題	●科学工作
大気汚染、土壌汚染	地球儀模型
エネルギーの問題	太陽系惑星の模型
農村の暮らしや農業	地震の構造についての模型
水と排水の問題	潜水艦・汽車・電車・船の模型
ゴミの問題	車・バイク・飛行機の模型
地球規模で起きている環境問題	トナカイとそりの模型
●科学実験・学習	人力車の模型
熱に関する実験(30項目)	繰り人形
光に関する実験(25項目)	スタンドグラス
音に関する実験(10項目)	切り絵工作
水の性質に関する実験(15項目)	カード作り(3種)
物理(運動)に関する実験(22項目)	写真立て
物理(力)に関する実験・学習	タイヤの構造についての模型
電気に関する実験(5項目)	イルカのプーメラン
化学に関する実験(19項目)	まわして飛ばすおもちゃ作り
生物に関する実験(8項目)	ジェットコースターの模型
土に関する学習	紙コップを使って音を伝える
原子と分子に関する	クリスマスツリー
太陽系の惑星についての学習	雪だるま作り
化学変化・物理変化の学習	家の模型作り
進化についての学習(2項目)	紙コップUFO、その他

II フェ市の生活改善事業

【資金：(株)INAX/(株)LIXIL、三井物産環境基金、キャノン(株)、地球環境基金、リンクフォー、エコポイント、輝けアジアの子ども基金】

旧市街と新市街を分けるフォン川を中心に、王宮、寺院、皇帝廟など風格のある建築物が点在し、美しいたたずまいを見せるフェ市は、観光産業を主体にホテルや土産物屋が立ち並びます。しかし王宮の外堀の裏に回ると、水上生活の小さな船が係留された貧しい地域が残っています。船は生活の場であり、同時に河底の砂を回収して収入を得るための道具でもあり、季節になると子どもも川砂採取を手伝うため、学校へ通うことが中断されてしまいます。

BAJは、2002年からフェ市人民委員会や、フービン地区、フォンロン地区の人民委員会と協力して、環境改善活動を基本に、子どもたちを主役に教育支援や環境教育を実施しています。また、2008年からはフェ市郊外の農家と協同で、地場野菜の普及やバイオガスダイジェスターを設置して農家の自立的経営を支援しています。

(1) 教育支援事業

地域の子どもたちを対象に、学校の勉強の補習クラスとお絵描きクラスを、フービン地区、フォンソー地区、フーマウ地区、トイビエウ地区、トゥイスワン地区の各地区で実施しました。各地区の住民宅を借りてクラスを実施し、地域のおとなや子どもが、勉強の様子を見ることができるようになりました。

1月にはお絵描きクラスや環境グループの子どもたちと、ホーチミン市第2区タインミーロイ地区の子どもたちが「輝けアジアの子ども基金」サポーター向けの年賀状を作成しました。



ワークショップで子どもたちが作った発表のためのポスター

■実施状況は以下の通りです。

場 所	対 象	実施日
フービン地区/パン工房地域	小学3～5年生 12人	毎週日曜日
フォンソー地区集合住宅	小学3～6年生 13人(元フービン地区第14地区やビーザ地区の水上生活地域の子どもたち)	毎週水曜日
フーマウ地区集合住宅	小学3～5年生 11人(元フービン地区第14地区水上生活地域の子どもたち)	毎週木曜日
トイビエウ地区(絵画クラス)	小学1～5年生 20人	毎週日曜日
トゥイスワン地区(絵画クラス)	小学1年生～中学2年生 17人	毎週土曜日

(2) 環境教育活動

フービン地区、フォンロン地区、トイビエウ地区、トゥイスワン地区および、フービン地区水上生活地域の移転先のフォンソー地区集合住宅とフーマウ地区集合住宅の地域の子どもたちや小中学校の子どもたちや地域住民を対象に、下記のテーマで活動を実施しました。

① 分別した資源ゴミの回収

② ゴミゼロを目指し、生ゴミ回収と堆肥づくり

子どもたちがグループになって地域のゴミを定期的に回収し、有価ゴミを換金して活動費用に充てました。また、生ゴミも回収して堆肥として活用しました。



農家の方からお話を聞く子どもたち

③地域を流れる川や井戸の水質調査

子どもたちが地域を流れる水路を住民がどのように活用しているか観察し、家畜を飼育する農家周辺の川や井戸の水質を調査しました。また、バイオガスダイジェスター設置地域を定期的に調査しました。

④地区の学校を対象とした環境学習・実践活動

⑤4地区の女性同盟・農民同盟・人民委員会関係者を対象とした環境学習会の開催

フービン地区、フォンロン地区、トゥイビエウ地区、トゥイスワン地区の地域住民や学校児童を対象に、水やゴミ問題について学習し、地元の食材を使うエコクッキング大会を実施しました。

⑥地元産の安全な野菜の栽培・販売・消費の促進

トゥイビエウ地区、トゥイスワン地区では、地域の女性グループ「ふるさとの味研究会」や子どもたちが農家や市場を訪問し、庭先で栽培されている無農薬野菜や、市場で取り扱われている野菜の生産地、価格などを調べました。「ふるさとの味研究会」は地場野菜を発掘し、伝統料理を復活して安全な野菜への認識を深めました。

⑦家畜糞尿を処理するためのバイオガスダイジェスターの設置

8月にトゥイスワン地区を対象にダイジェスターを設置する農家5軒を「BIOグループ」としてまとめ、ダイジェスターの維持管理や、新たに設置を希望する農家への補助などを目的に、グループ基金を積み立てています。

⑧フエ近郊の里山保全活動



レンガとコンクリートでタンクをつくっていく



バイオガス街路灯の柱を子どもたちが装飾



道に石が敷かれ、歩きやすくなりました

Ⅲ クイニョン市の環境教育事業

【資金：㈱LIXIL、三井物産環境基金】

ベトナム南部の南シナ海に面した港で、ビンディン省の省都であるクイニョン市は、人口20万人の町です。チャンパ王国の遺跡群が散在する一方で、美しい海岸のリゾート地でもあります。BAJは、2005年からクイニョン市で環境改善活動を開始し、子どもたちを対象に、お絵描きクラス、ゴミ分別活動、ホーチミンやフエの子どもたちとの情報交換などの環境教育活動を実施しました。

2011年は、ニョンビン地区で、①地域・環境・ごみ分別活動を課題にお絵描きクラス、LIXIL水環境テキストを使った学習、②ゴミ分別活動、③インターネットを活用した情報交換、などを引き続き行いました。

新学期の9月に向けて地区人民委員会と協議した結果、9月から6年生を対象に、月2回の環境学習活動を実施することになり、水や里山、ゴミなどについて学習したり、地域の植物を調べる授業も行いました。

IV 環境ワークショップの開催



環境ワークショップでは、子どもたちがかわるがわる発表した



多くの人々がワークショップに集まった

BAJはホーチミン市、フエ市、クイニン市の3カ所の都市で、子どもたちや障害児者を対象に活動を進めてきました。とくに先行して活動を開始したホーチミン市アンカイン地区の子どもたちは、活動で得た経験や知識を、他都市で活動する子どもたちにインターネットで伝えたり、一同に会しての交流と情報交換のワークショップを実施しました。2011年は、2月27日・28日と、9月27日の2回実施し、内容は以下の通りです。

■2011年第1回環境ワークショップ(2月27日・28日)参加者

都市名	参加者(合計64名)
フエ市	フエ市トゥイビエウ地区地区長・党書記長・トゥイビエウ小学校校長 フエ市トゥイスワン地区地区長・グエンティミンカイ中学校校長 フエ市の各地区の社会組織・農家・市場販売員合計18名 フエ市の環境活動に参加する子どもたち7名
クイニン市	クイニン市ニョンビン地区住民リーダー 1名・女性同盟員1名
ホーチミン市	ホーチミン市グエン ヴァントー中学校教員1名、生徒1名 ホーチミン市ゴイサオ学校校長 ホーチミン市ばじこ教室生徒19名、保護者10名

ワークショップ・プログラムは、環境活動に参加する子どもたちによる活動報告と、環境劇の発表、2009年に日本で研修を受けた子どもたちによる日本の事例の紹介、フエ市トゥイスワン地区地区長、トゥイビエウ地区地区長による活動報告に加え、ベトナムの伝統的な料理の調理を体験するツアーの視察、農村の自然や暮らしを体験するツアーの視察を行いました。



トゥイビエウ市場に設置したステンレスの衛生的な販売台



トゥイビエウ地区の子どもたちが地域に生えているバナナについて研究

■2011年第2回環境ワークショップ(9月27日)参加者

都市名	参加者(合計29名)
フエ市	フエ市フォンロン地区地区長 フエ市トゥイビエウ地区地区長・トゥイビエウ小学校教員1名 フエ市トゥイスワン地区地区長・グエンティミンカイ中学校教員1名 フエ市フービン地区青年団員1名 フービン地区・トゥイビエウ地区・トゥイスワン地区の農家・市場販売員合計12名 環境活動に参加するフエ市内の子どもたち6名
クイニン市	クイニン市ニョンビン地区青年団員2名、教員1名
ホーチミン市	ホーチミン市グエンヴァントー中学校教員2名

ワークショップの内容は、フエ市トゥイスワン地区・トゥイビエウ地区地区の各長による活動報告、環境活動に参加する子どもたちによる発表、ホーチミン市グエンヴァントー中学校での活動報告、クイニン市ニョンビン中学校での環境学習活動開始についての報告で、質疑応答のあと、各地区の活動を視察しました。



スタンダップ! 動く→動かすに賛同です

国内活動事業

東京本部

3月に起きた東日本大震災以降、国内の社会経済は大きな変化を見せ始めています。被災した人々はもちろんですが、国民全体が、地域とのつながりの大切さやエネルギー問題について考え、将来の日本の姿について思いを馳せたのではないのでしょうか。企業は、自然エネルギー開発へ大きくシフトしていますし、人々の働き方や地域とのつながりに変化が見え始めています。社会貢献という言葉が、人々に実感をもって受け入れられたと言ってよいでしょう。

2011年、BAJは大震災の事実を受けて、初めて国内での被災地支援活動を開始しました。

また、古着を回収してリサイクルする「フルクル」事業も進めました。さらに顧客管理のデータベースを導入して効果的な広報と資金調達につなげる計画を進めました。2011年のマンマーは体制が流動的で承認や許可がほとんど動かず、苦しい運営でしたが、民主化が進むマンマーに注目が集まっており、約20年の活動実績をもつ団体として、2012年に向けてセミナーを実施し、飛躍の年となるよう事業を進めました。

I 資金の調達

2010年末にマンマーでは総選挙が実施されました。そのために外国人に対するさまざまな規制がいつそう厳しくなり、滞在ビザの申請や事業許可など停止状態となって事業進捗に大きな障害となりました。また、東日本大震災の影響で、相対的に国際協力活動に対する支援が減少したこともあり、2011年の資金調達を計画通りに進めることができませんでした。

国内事業として新たに2つの事業を開始しました。2010年末から取り組んだ古着のリサイクルプログラム「フルクル」事業と、東日本大震災を受けての「大震災復興支援」事業です。フルクルは多くの方々との協力で徐々に成果をあげています。また大震災復興支援事業は、2011年でJPF(ジャンプラットフォーム)資金による半年間の事業を終了し、2012年2月よりJPFによる第2フェーズとして大船渡市「さんさんの会」と、またGive2Asiaの資金により4月より大槌町「おらが大槌夢ひろば」と協同で事業を開始しています。

(1) 助成金や会費、寄付など

2011年のプロジェクト地域ごとの主な資金調達先は以下の通りでした。個人の方からのご寄付は、個人情報保護の観点から割愛させていただきました。

事業	機関・団体名
ミャンマー	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国連世界食糧計画 (WFP)、ワタベウェディング(株)、プランインターナショナル、三井住友銀行ボランティア基金、損保ジャパンちきゅうくらぶ、渡部隆夫
ベトナム	独立行政法人環境再生保全機構(地球環境基金)、(株)LIXIL、(株)エイチ・アイ・エス、キャノン(株)
東北(岩手)	(特非)ジャパンプラットフォーム、三菱商事(株)、インフィリック(株)、ブリッジャーズ(有)、(株)ピース・イン・ツアー、(株)日本開発サービス、日光物産(株)、(株)ソーワコンサルタント、(有)峰秀興業
BAJ(東京)	外務省(NGOインターンプログラム)、住友商事(株)、(株)ピロタス、(特非)ケアセンターやわらぎ、(特非)ミャンマー総合研究所、(株)ダイナックス、(株)ピース・イン・ツアー、国際航業(株)、城西国際大学、岐阜長良川ロータリークラブ、(株)日本開発サービス、WAVE、静岡日本語教育センター、(株)エヌエルシー、ワタベウェディング(株)、(株)ソーワコンサルタント、(有)峰秀興業、(株)大木組、ブリッジャーズ(有)、キャピタル工業(株)、富士ゼロックス(株)、富士ゼロックス端数倶楽部

緊急救援募金として3月に東日本大震災支援のための緊急募金を行い、また10月にミャンマー中部で起きた鉄砲水被災支援の募金を行ったため、恒例の夏募金を中止し、冬は「ありがとうを届けよう」というコピーで冬募金を行い約18万円のご寄付をいただきました。

東日本大震災救援募金では、2011年12月末までに9,024,669円のご寄付をいただきました。

鉄砲水による洪水被災のための緊急募金では、2011年10月から開始して、2012年4月末までに907,259円をご寄付いただきました。



冬キャンペーンで、アニメ制作会社によるキャラクターを使用した広報を展開しました

■2011年度の会費・寄付の指定別金額は以下の通りです。

	会費・BAJ寄付・まるごと	ミャンマー	ベトナム	東北支援	合計
国内	5,163,554	23,165,670	3,192,666	7,982,039	39,503,929
海外	14,864,856	1,609,880	3,334	1,042,630	17,520,700
合計	20,028,410	24,775,550	3,196,000	9,024,669	57,024,629

(2) 東京事業の開始

2011年は資金調達を計画通りに進めることができなかったため、かねてから懸案だった収益事業として古着のリサイクル事業を開始することにしました。また、2011年4月からJPF(ジャパンプラットフォーム)への加入を決めていましたので、3月に起きた東北大震災復興支援事業の開始も決断しました。

① フルクル・プロジェクト

以前から古着の問い合わせは多かったのですが、保管場所や輸送の問題がありました。2010年末に神戸のリサイクル業者である日光物産(株)から倉庫を提供していただけるなどの提案があり、事業を進めることになりました。古着を送料負担で倉庫に送っていただき、業者が1キロ10円で買い取ります。古着は、アジアや中東などに運ばれてリサイクルされます。

BAJとしては、国際協力に関心のある層の新規開拓として、まず知ってもらうことを目的にチラシの配布や新聞への広告掲載に取り組みました。その結果、会社や団体として取り組むケースや、社会福祉協議会が住民へ周知するなど、徐々に浸透しています。

2011年度の倉庫受け取りは、1,612件で1.48トン、買い取り金額は153,853円になりました。



BAJで集めた古着が集まる日光物産(リサイクル業者)



古着回収イベントで52箱も集まりました!

②東北復興支援事業

3月に起きた東日本大震災を受け、BAJでは緊急募金による皆様からの寄付金とJPF資金を導入して、地元で立ち上がった2つの団体を支援することを決めました。

大船渡市で立ち上がった「3.11三陸気仙復興協議会」(通称:さんさんの会)は、被災した地元の飲食店やレストランの料理人のグループで、震災翌日から炊き出しを開始し、避難所となったリアスホールの厨房を借りて、惣菜を中心に多い日は1日2000食を避難所や仮設住宅に配食し、9月初旬には延べ17万食に達しました。

BAJは5月20日から8月19日までの3カ月間の事業費用を支援し、その間に59,740食と人件費や施設費等の運営のための費用を支援しました。

10月にリアスホールを退去し、福祉施設などを移動しながら2012年5月現在、新たな拠点として日頃市町に「さんさんキッチンハウス」を建設中で、継続して配食事業と見守り、コミュニティづくりの活動を実施中です。BAJは現在も支援を行っています。

盛岡市で立ち上がった「SAVE IWATE」は、地元の建築事務所や作家、主婦など多彩な市民が集まったグループです。沿岸部被災地のニーズとボランティアさんをつなげたり、支援物資の受けと供給の活動を行っています。SAVE IWATEの提案で陸前高田市での配食事業を行いました。

陸前高田市内で自動車教習所を経営する高田自動車学校のご厚意により、厨房をお借りし、JPF資金の導入により「まごころキッチン陸前高田」を立ち上げました。調理人や配食など担当者を雇用して、6月8日にスタートし10月4日までお弁当形式の配食を実施し、事業期間内に40,681食を避難所や仮設住宅に届けました。

■2011年3月から12月までの会計報告は以下の通りです。

収 入	金額(円)
ジャパンプラットフォーム	23,770,000
三菱商事復興支援助成金	2,500,000
団体からのご寄付	440,000
個人からのご寄付	5,042,039
海外からのご寄付*	1,026,305
合 計	32,778,344

*1ドル=79.59円 1ドル=798.71ミャンマーチャット 1円=256.28ベトナムドン

支 出	金額(円)
事業費(食材・車両購入など)	23,085,862
人件費(現地)	4,260,000
旅費交通費	1,385,451
通信運搬費	42,170
広報印刷費	28,000
保険料	280,910
支払い手数料	124,322
管理費	1,627,086
合 計	31,734,501



大船渡のリアスホールで配食の調理



盛岡のSAVE IWATEの物流拠点



大槌町の復興食堂を見学



陸前高田市のまごころキッチン、お弁当を届ける



3月11日の東京事務所



リアスホールでは毎日1000食以上を用意

II 広報活動

より多くの方々にBAJの活動を知っていただき、ボランティアやご寄付でご協力をいただくことは、安定した組織運営のうえで大きな役割を担っています。また、事業の透明性の観点からも、広報活動に力を入れています。

(1) 情報発信

ご支援をいただく方々とBAJの活動現場をつなぐ大切なツールとして、2011年も引き続き『BAJ通信』(隔月発行)、ホームページ、BAJメールマガジン、ブログ(駐在員・東京)、ツイッターなどを活用して適宜情報を発信しました。

一時帰国した現地駐在スタッフによる報告会、外部組織が主催する講演や講義、さらにイベントなどには、可能なかぎり参加してBAJの事業を紹介し、またミャンマーやベトナム製品の販売を行い、広報に努めました。

BAJ主催の報告会やキャンペーンについては、2011年は12回にわたりプレスリリースにより周知を試みました。

■2011年のBAJが主催した報告会、イベント、講演・講義は以下の通りです

日時	イベント内容	報告者	実施場所
1月7日	ベトナム活動報告	ニン	BAJ東京事務所
3月22日	BAJインターン報告	カインスラ	BAJ東京事務所
4月2日	ミャンマー北西部報告会「鎌をスバナを持ちかえた村の青年の希望と困難」	池田	渋谷・地球環境パートナーシッププラザ セミナースペース
4月8日	瑞穂アジア塾「東北地方太平洋沖地震と地域の防災を考える」	束村	鳥根県いきいきセンターみずほ(出羽公民館)
4月28日	BAJインターン報告	小暮	BAJ東京事務所
5月20日	MIA青年フォーラム勉強会・ゲスト	大須	武蔵野市国際交流協会
7月1日	「ベトナム・フエの魅力を探るツアーを企画しよう」ワークショップ	片山	JICA地球ひろば
8月5日～18日	BAJ東日本大震災活動展示	大須・谷合・吉田	世田谷・経堂ソーシャルエナジーカフェ
8月18日	BAJチャリティーカフェ「アジア涼スイーツを食べて東北支援」	大須・秋葉・谷合・吉田	世田谷・経堂ソーシャルエナジーカフェ
8月19日	立教大学生インターン報告会	谷合・吉田	BAJ東京事務所
9月7日	BAJ東日本大震災復興支援報告会「NGOと地元有志～それぞれの支援の成果と課題」	山崎・及川・根本	東京青山ウイメンズプラザ会議室
11月1日	BAJ講習「ワークライフバランスと社内規定」	大野	BAJ東京事務所
11月30日	明治学院大学JUNKO Association報告会(BAJの活動)	根本	明治学院大学JUNKO Association報告会(BAJの活動)
12月2日	BAJ交流会	大須・マクガバン・伊藤	渋谷区レストラン「ミスサイゴン」
12月17日	BAJ「おいしく覚えようベトナム語"ンゴン!"」	大須・高橋・伊藤	渋谷区レストラン「ミスサイゴン」

情報発信のほかにも、国際協力活動を実施するNGOの事務所訪問を希望する学生・生徒などの受入れを実施し、NGO活動の紹介を行いました。

■2011年前半は東日本大震災の影響で多くのイベントが中止となりました。BAJが参加したイベントは以下の通りです

日時	イベント内容	報告者	実施場所
5月22日	国際協力フェスタMY宇都宮	平田夫妻	宇都宮市体育館
7月16日	アジア・アフリカ布フェア	大須・寺田・小林	六本木ホテルアイビス
10月1・2日	外務省・国際協カグローバルフェスタ	BAJ全員・他	東京日比谷公園
10月23日	よこはま国際フェスタ2011	高橋・山木・沼田・他	横浜市・象の鼻パーク
11月5・6日	東京おもちゃまつり／ぬりえ	高橋・大須・関口・他	東京おもちゃ美術館
11月13日	宇都宮フェアトレードまつり	平田	宇都宮バンバひろば
	鹿沼ワールドフェスタ	平田	鹿沼商工会議所
12月16日	三菱商事㈱チャリティーバザー	大須・伊藤	丸の内パークビル



ベトナムワークショップでグループごとにツアーの内容を計画



東京おもちゃまつりでは子どもたちにぬりえをもらった

(2) 広報強化事業

JICAアドバイザー派遣事業「NGO組織強化」により、BAJは「ファンドレイジング戦略と支援者管理データベースの効果的活用」のテーマで採択され、8月から2012年2月までに14回にわたり、専門家からの指導を受けました。また、全体を統括する広報担当者を決め、効果的に事業を進めていくことになりました。

① 支援者管理データベースの導入

これまで蓄積した支援者情報が一括管理されていないために、貴重な情報が有効活用されていませんでした。アドバイザー派遣により、顧客管理ソフトのセールスフォースの導入とBAJに合わせたシステム構築を指導していただきました。データの移動などを終了して実際に2012年3月から稼働を開始し、現在も改良を重ねて運用しています。



鶴尾講師によるファンドレイジングの研修



与えられた課題に取り組むBAJスタッフ

② ファンドレイジング

JICA平成21年度・NGO組織強化のためのアドバイザー派遣を活用して登場スタッフを対象に広報力強化のための研修を実施しましたが、平成23年度についてもこのスキームを利用してアドバイザー派遣による広報・支援者拡大分野で、「ファンドレイジング戦略と支援者管理データベースの効果的活用」の研修を受けることができました。とくにデータベースのソフトウェア「Salesforce CRM」の導入に伴い、(株)ファンドレックスからの専門家派遣によりシステム構築と指導を受けました。その結果、BAJの広報コーディネータを中心に、2012年に向けた広報アクションプランの作成と、BAJ支援者などステークホルダーのカテゴリーの見直し、各カテゴリー別の効果的アプローチによる資金調達計画など作成し、年間事業計画を立てました。

■ 専門家派遣の研修内容は以下の通りです

日時	参加者	内容
8月29日	山木	オリエンテーション(全体のスケジュールについて見直し、データ分析の進め方について)
9月30日	山木、沼田	データベースの整理作業と、データ分析結果のシェア
10月11日	全員	BAJのファンドレイジングに関する課題の洗い出し
10月17日	山木、沼田、大須、関口、伊藤	ファンドレイジングに関する課題のまとめ
10月28日	山木、沼田	旧DBから新DBへの移行について
11月10日	山木、大須、関口、高橋、正治	これまでの課題のふり返り、どのような対応が可能か
11月28日	全員	2012年度以降のファンドレイジング・アクションプラン作成
12月2日	山木、沼田	データベースでのインポート、エクスポート作業について
12月16日	山木、沼田	Salesforce CRMの各種機能について(メルマガ登録フォームの作成、レポートキャンペーン昨日の使い方、など)
12月26日	山木、沼田	Salesforce CRMのキャンペーン昨日の使い方について、フルクルお礼キャンペーンの企画について
1月13日	山木、沼田、伊藤	フルクルお礼キャンペーンの効果検証方法について
1月27日	山木、沼田、伊藤	フルクルお礼キャンペーンの準備進捗の確認、Salesforce CRMのカスタマイズ作業についての指導
2月10日	山木、沼田、伊藤	アクションプランの見直し、フルクルお礼キャンペーン内容の確認、Salesforce CRM機能説明についての指導
2月24日	全員	アドバイザー派遣の振り返り、Salesforce CRMの内容確認

Ⅲ 総務・管理

育児休業・介護休業の法令化にともない、BAJも9月に「BAJ育児介護規程」を策定しました。2011年はスタッフ2名が育児休業を取得しています。これに伴い東京都中小企業子育て支援助成金を受け、社労士によるスタッフ研修や東京都の経営者研修を受けました。

インターンについては、外務省インターンシッププログラム、NPOサポートセンター・インターンシップ、立教大学コミュニティ福祉学部インターンシップ、日本語留学生センターの各機関から、またBAJボランティアカフェを通じた東京インターンを延べ13人受け入れました

(1)職員研修

スタッフの必要に応じて情報収集やネットワーク構築、研修を目的に、以下の会議・研修・セミナーなどに参加して職員のスキルアップに努めました。



社労士によるスタッフの両立支援研修

日時	内容	参加者	場所
1月14日	JICAセミナー／アイデンティティを強くする	沼田	JICA地球ひろば
1月19日	国際交流基金セミナー／防災と人々のつながり	大須	ワシントンホテル
1月27日	2010年度IPA中小企業情報セキュリティセミナー	山木	三鷹産業プラザ
1月28日	FASID・PCM研修／NGOコース(～30日)	山木	FASID研修室
2月2日	SVAタイ報告会／絵本の光を届けたい	沼田	JICA地球ひろば
2月3日	PDM実践のための勉強会	山木	BAJ
2月5日	FASID・PCM研修(～6日)	山木	FASID研修室
2月10日	NGO・JICA・企業共同事業研究会	沼田	JICA地球ひろば
2月13日	FASID・PCM研修(～14日)	山木	FASID研修室
2月24日	FASID・PCM研修／モニタリング評価(～27日)	平井	FASID研修室
2月25日	JANICセミナー／多様化するNGOと企業のパートナーシップ	沼田	代々木スポーツセンター
3月26日	シャプラニール／東北関東大震災支援活動緊急報告会	沼田	キリスト教視聴覚センター
	シャンティ／震災報告会・現場で何が起きているか	大須	真生会館ビル
5月11日	シーズ／東日本大震災に関する寄付税制説明会	大須	文京シビックセンタ
5月25日	寄付税制に関する緊急集会	大須・平井	議員会館
5月27日	JICAセミナー「ソーシャルメディアの活用」	沼田	JICA地球ひろば
6月28日	SVA震災報告会「岩手で移動図書館活動」	大須	SVA
7月1日	UNHCR 副高等弁務官との意見交換会	大津	UNHCR事務所
7月26日	労務管理研修	根本	国分寺労政会館
8月1日	JETRO公開講座「ミャンマーの2011年民政移管・政治経済状況の整理」	大須	JETRO東京本部
9月5日	CIGSシンポジウム「東日本大震災とNGO—グローバルな視点を踏まえて」	大津	新丸ビル9階カンファレンススクエア
9月27日	セールスフォース研修(～28日)	山木	NECラーニング株式会社 芝浦会場
10月5日	シンポジウム「震災後のケアプラン」プランジャパン	沼田	銀座文祥堂ホール
10月20日	シンポジウム「戦略的大口寄付者獲得と遺贈寄付の設計」ファンドレイジング協会	山木	日本財団ビル
11月11日	NPO会計基準ミニ勉強会	関口	NPO事業サポートセンター
11月17日	「1951年難民の地位に関する条約」採択60周年及び日本の難民条約加入30周年記念シンポジウム	大津	国連大学ウタントホール
11月18日	国連難民高等弁務官との意見交換会	大津	UNHCR事務所
12月6日	再生可能エネルギー展示会	束村	幕張メッセ
	決算法人説明会	大須・関口	渋谷商工会館
12月12日	セールスフォースCRM NPO分科会	山木	(株)セールスフォース会議室
	セールスフォース活用クリニック	山木	
12月24日	ミャンマーセミナー	束村	明治学院大学

(2) ネットワーク

行政や他団体が実施する会合に参加し、事業環境の整備や政策提言に関わりました。また、緊急救援の資金確保として4月よりジャパン・プラットフォーム(JPF)に加入しました。

■参加・加盟した団体は以下の通りです。

ネットワーク団体	担当
J-FUN(UNHCRとNGOのテーブル)	平井・山木
CSR推進ネットワーク	沼田・新石
シーズ=市民活動を支える制度を作る会	大須・根本
JPF(NGOユニット全体会議)	大津
東北関東大震災支援NGO情報交換会	大津・新石・沼田
東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)	大津・箕田
震災全国ネットワーク	大津
動く→動かすパートナーシップフォーラム	沼田
JANIC(国際協力NGOセンター)	大津
NGO-JICA協議会	大津
ケアセンターやわらぎ評議委員会	根本
日本ファンデレイジング協会	随時
NGO外務省定期協議会・連携推進委員会	大津
E-NPO市民会議	根本
バイオメディカルサイエンス研究会	根本

(3) インターンの受入れ

希望者については、ボランティアカフェへ参加して、活動内容など説明を受けていただき、適切と判断すれば「インターン契約」により勤務条件など決めてBAJへの受け入れを行いました。

■2011年の受入れは以下の通りです。

氏名	期間	備考
新石 正治	2011年4月～2012年3月末	外務省インターンシッププログラム
小暮 祥一	1月4日～4月末日	東京事務所インターン
カインスラ	2月2日～3月22日	東京事務所インターン
秋葉 沙里	6月2日～8月12日(週2回)	NPOサポートセンター・インターンシップ
大久保 翔	5月12日・13日	NPOサポートセンター・インターンシップ 現場体験

谷合 文香	8月1日～8月12日	立教大学コミュニティ福祉学部 インターンシップ
吉田 夏美	8月8日～8月19日	立教大学コミュニティ福祉学部 インターンシップ
八巻 絵美	8月26日～8月30日 (3日間)	世田谷ボランティアセンター「ナツボラ」
伊藤 祥子	10月3日～12月28日	東京事務所インターン (10月19日～11月17日はベトナム研修)
アン・マクガバン	9月14日～12月7日	日本語留学生センター(毎週水曜日)
木下 真里	10月24日～28日	ミャンマー赴任前東京事務所研修
相澤 順也	11月2日、11月4日	NPOサポートセンター・インターンシップ 現場体験
高江洲 将行	11月10日、11月11日	NPOサポートセンター・インターンシップ 現場体験



東京事務所のインターンのみなさんと



ボランティアカフェでは簡単な作業をしていただいた

IV 海外事業の支援

ミャンマー政府民主化の体制変化にともない、周辺国の動きが活発化していますが、2011年は前年に実施された総選挙の影響が強く、許可や承認などの手続きに非常に時間がかかり、予定した事業の実施が延期されるなど事業運営上困難な年になりました。

東京事務所では、海外事業地で必要な物資の調達を行いました。また、専門家派遣については、申請したものの許可が得られず断念したケースが数件ありました。

支援者の現地視察希望については、ミャンマーの場合地方への移動については制約を受けたケースがありましたが、ヤンゴン事務所への訪問はできました。

(1) 現地活動の視察

2011年は、ミャンマー政府体制の急激な変化に伴い、ビザ申請に関する手続きが難しい状況に変わりはありませんでした。専門家の現地派遣、BAJ支援者や関係機関から現地への訪問要請があった場合は、調整しながら進めましたが、ビザの申請でとくに地方への移動許可がなかなか下りず、実現できない場面もありました。

■2011年の現地受け入れは以下の通りです。

日時	参加者	内容
1月18日～21日	株INAX/川合和之様、 芦田亜紀様 (社)Think the Earth / 原田麻里子様	ベトナム・フエ市の 事業地視察
2月17日～20日	ワタベウエディング(株) / 渡部隆夫様、高井郁代様	ミャンマー・チャウパドン 井戸および学校校舎の引渡式
2月17日～21日	木村シズ工様、木村昭雄様	ミャンマー・チャウパドン 井戸の引渡式とKPD視察
3月14日～20日	松本輝茂様	ミャンマー・チャウパドン 学校校舎寄付のための調査
7月30日～8月2日	株LIXIL / 芦田亜紀様、 熊崎千恵美様	ベトナム・フエ市の 事業地視察
10月30日～11月1日	予防医学協会 / 永尾信一様、 岡田真由美様	ベトナム・フエ市の 事業地視察
11月2日	株黒雅叙園 / 梶 明彦様、 ほか1名	ミャンマー・ ヤンゴン事務所訪問
12月7日	植田泰史様、 ヘン・フーチョン様	岩手県大船渡市 さんさんの会
12月16日～17日	地球環境基金 / ご担当者様	ベトナム・フエ市訪問



ベトナムの環境学習で、ドナーの視察を受入れる



浄化槽の説明をする



ミャンマーの井戸を設置した村をワタベウエディング(株)会長が訪問

(2) 出張・招へい

事業運営上必要と判断した職員の出張を行いました。

4月より開始した東日本大震災復興支援事業では、担当者の出張は2011年で22回にのびりました。



陸前高田でSAVE IWATEと配食について打ち合わせる

2011年会計報告

活動計算書 (自2011年1月1日～至2011年12月31日)

【経常収益】

		(単位：円)	
1. 受取会費(注1)		1,690,000	1,690,000
2. 受取寄付(注2)		55,334,629	55,334,629
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	53,035,095	164,356,049
	受取補助金(注3)	111,320,954	
4. 事業収益		7,952,773	7,952,773
5. その他収益		474,488	474,488
経常収益計(A)			229,807,939

注1 受取会費内訳		(単位：円)
個人会費		1,210,000
団体会費		480,000
受取会費計		1,690,000

注2 受取寄付・受取助成金内訳		(単位：円)
BAJ寄付		25,195,938
まるごとサポーター		937,000
ミャンマー寄付		39,158,113
ベトナム寄付		10,368,614
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)		1,128,000
東日本大震災寄付		31,582,059
受取寄付・受取助成金計		108,369,724

※主な寄付先はP19の表をご参照ください。

【経常費用】

		(単位：円)	
1. 事業費	人件費	56,668,372	193,736,957
	その他経費	137,068,585	
2. 管理費	人件費	26,226,435	41,141,301
	その他経費	14,914,866	
経常費用計(B)			234,878,258
当期正味財産増減額(A)-(B)			-5,070,319
前期繰越正味財産額(C)			78,003,496
次期繰越正味財産額(A)-(B)+(C)			72,933,177

注3 受取補助金内訳		(単位：円)
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)		
・ミャンマー/ラカイン州における技術ワークショップ及びインフラストラクチャー事業		51,272,835
・ミャンマー/南東地域における復興・給水施設建設事業		56,378,442
独立行政法人環境再生保全機構		
・ベトナム/フエ市における小規模農家を対象としたバイオガスダイジェスター普及事業		1,362,898
外務省		
・インターン・プログラム制度		1,906,779
東京都		
・両支支援推進援助費		400,000
受取補助金計		111,320,954

事業別損益の状況

科 目	ミャンマー ラカイン州北部 地域開発事業	ミャンマー 中央乾燥地域に おける生活用水 供給事業	ミャンマー 南東国境事業	ミャンマー デルタ地域サイクロン 被災地復興支援事業	ミャンマー ヤンゴン事務所	ベトナム事業	東日本大震災	その他国内	合 計
I 経常収益									
1 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	1,690,000	1,690,000
2 受取寄付金	1,981,106	16,294,581	0	107,447	601,965	2,404,533	7,812,059	26,132,938	55,334,629
3 受取助成金等									
受取助成金	38,362	0	0	20,134,652	0	9,092,081	23,770,000	0	53,035,095
受取補助金	51,272,835	0	56,378,442	0	0	1,362,898	0	2,306,779	111,320,954
4 事業収益	3,491,461	1,028,670	0	0	194,163	2,512,358	0	726,121	7,952,773
5 為替差益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 その他収益	1,434	0	112	0	12,717	453,612	0	6,613	474,488
経常収益計	56,785,198	17,323,251	56,378,554	20,242,099	808,845	15,825,482	31,582,059	30,862,451	229,807,939
II 経常費用									
(1) 人件費									
給与手当	21,031,634	7,163,866	10,732,832	4,951,411	1,078,355	7,390,205	4,260,000	20,418,098	77,026,401
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	4,912,906	4,912,906
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	0	955,500	955,500
人件費計	21,031,634	7,163,866	10,732,832	4,951,411	1,078,355	7,390,205	4,260,000	26,286,504	82,894,807
(2) その他経費									
資機材費	26,979,832	3,416,459	28,473,401	16,260,199	0	1,867,998	21,919,667	-163,468	98,754,088
広報印刷費	0	0	0	0	11,407	51,989	8,000	3,213,807	3,285,203
旅費交通費	812,205	1,295,240	4,092,976	727,460	159,708	1,435,827	1,385,747	1,363,782	11,272,945
通信運搬費	852,327	591,286	484,337	253,174	12,172	194,421	40,270	1,417,703	3,845,690
消耗品費	693,826	315,667	1,179,401	152,478	88,024	176,877	0	1,050,113	3,656,386
修繕費	1,311,907	1,041,622	1,918,209	169,436	374,572	0	0	0	4,815,746
賃借料	1,129,335	475,783	4,534,136	324,055	110,012	1,308,351	0	4,648,580	12,530,252
減価償却費	0	2,313,326	0	0	0	0	128,211	0	2,441,537
保険料	971,715	241,009	414,690	209,812	482,994	190,060	280,910	122,990	2,914,180
調査研究・研修費	16,193	0	202,012	0	10,862	403,667	0	61,240	693,974
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	746,750	746,750
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	54,300	54,300
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
支払手数料	92,670	9,539	64,611	116,742	415	81,786	124,952	247,300	738,015
為替差損	0	0	0	0	0	0	0	1,612,630	1,612,630
雑費	47,919	173,717	218,671	2,278,852	18,782	1,014,076	22,600	777,138	4,551,755
その他経費計	32,907,929	9,873,648	41,582,444	20,492,208	1,268,948	6,725,052	23,910,357	15,222,865	151,983,451
経常費用計	53,939,563	17,037,514	52,315,276	25,443,619	2,347,303	14,115,257	28,170,357	41,509,369	234,878,258
当期経常増減額	2,845,635	285,737	4,063,278	-5,201,520	-1,538,458	1,710,225	3,411,702	-10,646,918	-5,070,319

貸借対照表 (2011年12月31日現在)

【資産の部】

(単位：円)

流動資産	現金預金	現金	505,382	80,804,753
		流動性預貯金	48,378,448	
		ミャンマー現預金	27,140,318	
		ベトナム現預金	3,834,201	
	棚卸資産	商品	0	
		立替金	36,249	
		未収入金	895,195	
その他流動資産	前払金	81		
	仮払金	14,879		
	機械装置	3,472,156		
	敷金	1,314,288		
固定資産	有形固定資産	3,472,156	4,786,444	
	投資その他の資産	1,314,288		
資産合計			85,591,197	

【負債の部】

(単位：円)

流動負債	未払法人税	70,000	8,683,055
	未払消費税	51,700	
	その他未払金	1,300	
	前受会費	80,000	
	前受助成金	128,296	
	前受補助金	7,074,099	
	預り金	1,019,332	
固定負債	仮受金	258,328	
	退職給付引当金	3,974,965	3,974,965
負債合計			12,658,020

【正味財産の部】

(単位：円)

前期繰越正味財産	78,003,496
当期正味財産増減額	-5,070,319
正味財産合計	72,933,177
負債及び正味財産合計	85,591,197

監査報告書

特定非営利活動法人 ブリッジ ユーシア ジャパン (B A J) の 2011 年度の
決算について、事業は適切に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、
会計原則に基づいて作成され、監査の結果、相違ないことを認めます。

2012 年 2 月 26 日

監事 高塚直子

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日NPO法人会計基準協議会)によっています。
同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて
定額法で償却をしています。

(2) 引当金の計上基準

・退職給付引当金
スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末
自己都合支給額から中退共制度の支給見込額を控除した
団体負担見込額を計上しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

2. 使途等が制約された寄附金等の内訳

(単位：円)

内 容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	残 高	事業期間
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ ラカイン州北部における技術ワークショップ 及びインフラストラクチャー事業(2011)	303	51,272,835	50,423,880	849,258	2011/1/1 ~ 2011/12/31
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ 南東地域における復興・給水施設建設事業 (2011)	37	56,378,442	50,153,638	6,224,841	2011/1/1 ~ 2011/12/31
外務省/ NGOインターン・プログラム(2011-2012)	0	1,273,139	1,376,436	-103,297	2011/4/1 ~ 2012/3/31
独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金/ ベトナム・フエ市における小規模農家を対象とした バイオガスタイジェスター普及事業(2011-2012)	0	571,000	1,362,898	-791,898	2011/4/1 ~ 2012/3/31
株式会社LIXIL/ ベトナムにおける環境教育(2011-2012)	0	1,500,000	1,371,704	128,296	2011/4/1 ~ 2012/3/31
三井住友銀行ボランティア基金/ミャン マー・ラカイン州北部における女性自立グ ループ育成プロジェクト(2011-2012)	0	1,000,000	250,000	750,000	2011/12/1 ~ 2012/9/30
ワタベウェディング株式会社/ミャンマー・ 中央乾燥地域における生活用水供給事業 (2011-2012)	0	15,000,000	7,458,195	7,541,805	2011/4/1 ~ 2012/3/31
渡部隆夫/ ミャンマー・中央乾燥地域における生活用 水供給事業(2012)	0	5,000,000	1,250,000	3,750,000	2012/1/1 ~ 2012/6/30
	340	131,995,416	113,646,751	18,349,005	

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科 目	財務諸表に計 上された金額	うち役員及び 近親者との取引
(活動計算書)		
受取会費	1,690,000	190,000
受取寄付金	55,334,629	383,419
管理費 広報印刷費	3,285,203	0
管理費 賃借料	12,530,252	1,200,000
(貸借対照表)		
敷金	1,314,288	1,314,288
	74,154,372	3,087,707

(単位：円)



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-39-3ビジネスタワー4F

TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395

E-mail:info@baj-npo.org http://www.baj-npo.org/

郵便振替口座 00130-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン

